

# 子どもたちが魅せる 奇跡だらけの世界

～子どもたちが教えてくれること～



【1】はじめに

【2】子ども達とのエピソード

①「わーい！自分でできた（9歳のあきちゃん）」

②「伝える 伝わる 感じあう（7歳のまさるくん）」

③「いったい何の表現なんだ！？（5歳のともくん）」

※名前は変更し、個人が特定できないようにして紹介してます。

【3】おわりに

【4】作者紹介



## 【1】はじめに一②

---

「子どもをよくみてごらん。  
子どもは、人が本来もっているはずの力を、  
ただ表現して、生きている存在だから」

私がコーチとして、  
人の可能性を伸ばすサポートを始めたころに、  
師匠の一人に言われた一言です。

その言葉の真意を追いかけて、  
無縁だった子どもの世界へと入っていきました。

子ども達との出会い、  
子ども達と過ごした時間、  
たくさんの出来事は、  
私の人生を大きく変えました。

同じ時間、同じ場所で過ごしているの、  
まるで世界が違う。

なぜ、子ども達は、あんなにも可能性に満ち溢れ、  
イキイキとし、豊かで美しいのでしょうか。

全ての感情を味わいながら  
おもいきり表現し  
世界や人を信頼し  
どんな存在とも繋がりをあえる

今という瞬間、  
自分という命を  
生ききっている子ども達。

子ども達が魅せる奇跡だらけの世界を  
一緒にのぞいてみましょう。

「風船むすんでー！！」

ある日一緒に遊んでいると、  
あきちゃんが、風船を持ってきました。

私：いいよ、結んだらいいねんな。  
あきちゃん：うん、結んで！

あきちゃんから風船を受け取ってみたものの、結ぼうとも結べない。  
ピンチです(笑)

あきちゃんが持ってきた風船は、ふくらましすぎてパンパン。  
結ぶ余裕を残してくれては、いませんでした。

あきちゃんがつくったものを、勝手に変えることはできません。

まずは、そのままトライだ！！

やってみましたが・・・なかなか結べませんでした。

あきちゃん：大人のくせに、できへんの？

私：(だって、これじゃ結べないって！！)



あきちゃん：早く結んでよ～

私：ごめん、風船結ぶの難しいねん！  
（あー、めんどくさくなってきたー）

私のほうが逃げモード。

めんどさいな～

誰かほかの人にやってもらったらいいのに～

そんな気持ちが出てきます。

あきちゃんがまた訊いてきました。

あきちゃん：風船結ぶのって、そんなに難しいの？

ゆり：ん？難しくは、ないよ。  
（・・・難しいって言ったのは私だよ。）

助け舟になったのは、あきちゃんの一言。

本当は、風船を結ぶことが難しいわけではないんです。

私は、結びにくくて、苦戦してただけなんです・・・

私 : あきちゃん。私、風船結んであげたいんだと思ってるんだ  
けど、ここ（結ぶところ）が短くて、指が挟まっちゃって  
ね。れなくて指がいたい。

あきちゃん：ほんまやー！指が赤くなってる。ちょっと待ってね。

あきちゃんは、私がつもっていた風船の大きさを、  
少しだけ小さくしてくれました。

少し小さくしてくれると、  
私は結びやすくなるし、助かります。

①「わーい！自分でできた（9歳のあきちゃん）」－③

---

あきちゃん：はい。これでどう？

小さくなった風船で試してみると、  
無事、結べました♪

あきちゃん：やったねー！

私：あきちゃん、助かったよ。ありがとう！

あきちゃん：うん、どういたしまして。

2人で大喜び♪

そして、あきちゃんは面白いことを言い始めました。

あきちゃん：風船結ぶのって、やっぱり難しいのかな？

私：ん？私が結ぶのをみていて、どうだった？

そういいながら、心の中では、やってしまったー！！です。

私が、難しいって言いまくったからな。

めんどくさくて使った「難しい」って言葉を使ったことが、  
あきちゃんの難しいかもしれないって感じることに  
繋がってしまったかもしれません。

何気なく使った言葉ですが、言葉って大事です。

あきちゃん：・・・あきも、結びたい。

私：いいね。次は、あきちゃんがやる？

あきちゃん：うん！一緒にやる！

次は、私が結ぶのではなく、



あきちゃんが結ぶことになりました。

私が風船をゆっくり結びます。

その様子をあきちゃんは、  
しっかり見ながら、自分で結び始めました。

子どもたちは、本当に面白いです。

私の手の動きをみる

そのままやってみる

真似をする

ものの15分もたたないうちに、  
あきちゃんの風船は完成しました。

あきちゃん：できた！！

私：できたね！やった♪

あきちゃん：わーい！風船結べるようになったあ！！



あきちゃんも嬉しい

私も自分のことのように嬉しい。

大人が勝手に風船を小さくして、結んでしまうこともできます。  
それでは、彼女の意志や、自分で考えてやったことを勝手に変えてしまう。

風船を小さくするならば、了承を得ることで、  
彼女の意志を尊重していくことができます。

止まらなくなったあきちゃんは、  
どんどん風船を作り始めました。

部屋の中は、風船だらけです(笑)

あきちゃんは、妹にも、風船結びを教えてあげていました♪



いった——————い！！！！

急に背中に激痛が走りました。

振り返ると、

笑いながら逃げている子が一人・・・まさるです。

私の背中をとび蹴りしてきました。

みんなで遊んでいた時間。

私は、子ども達の様子をノートに書いていました。

その最中に、とび蹴り・・・

やりすぎです！

私　：なにやってんねん、こら！！！（激怒）

ついつい感情的に怒鳴ってしまった私。  
ダメだとわかっていながら、抑えきれません。

まさるは、笑いながら逃げています。

あっちゃー！！  
効果なしとは、こういうこと。  
仕切り直しです。

私　　：まさる、話しがあるから、こっちにきて。

私は、真面目な顔で、まさるの顔を見ました。  
へらへら笑いながら来たまさる。

肩に手をおいて  
同じ目線に立ち  
目を見てちゃんと伝えます。

私が感じたこと  
私にあることは  
私が言葉にしないと伝わらないからです。

私　　：ゆりさん、今、めっちゃ痛かった。

私　　：私は、まさるのこと大好きやし、一緒に遊ぶの楽しいねん。  
でも、後ろから蹴られるのは、嫌だし痛かった！今振り返って、蹴  
ったのがまさるだったの、とっても悲しかった。わかる？

まさるの顔から、一瞬で笑いが消えていきます。

泣きそうになっている、  
そしてそのまま、最後まで続けます。

まさる：うん。ごめんなさい。

私：聴いてくれてありがとう。

②「伝える、伝わる、感じあう（7歳のまさるくん）」—③

---

と、手を離れた瞬間です。

まさる：ば—————か—————！！！！

・・・がっくり

そう来たか～

伝わらなかったかな～という気持ちが出てきたり  
ショックだったり。

私には、色んな気持ちが出てきました。

でも、伝わったかどうかは、わからない。  
何かあるかもしれないから、しばらく様子を見よう。  
そう思いました。

5分もたたないうちに、  
まさるが、私の横にやってきました。

無言のまま、座っています。

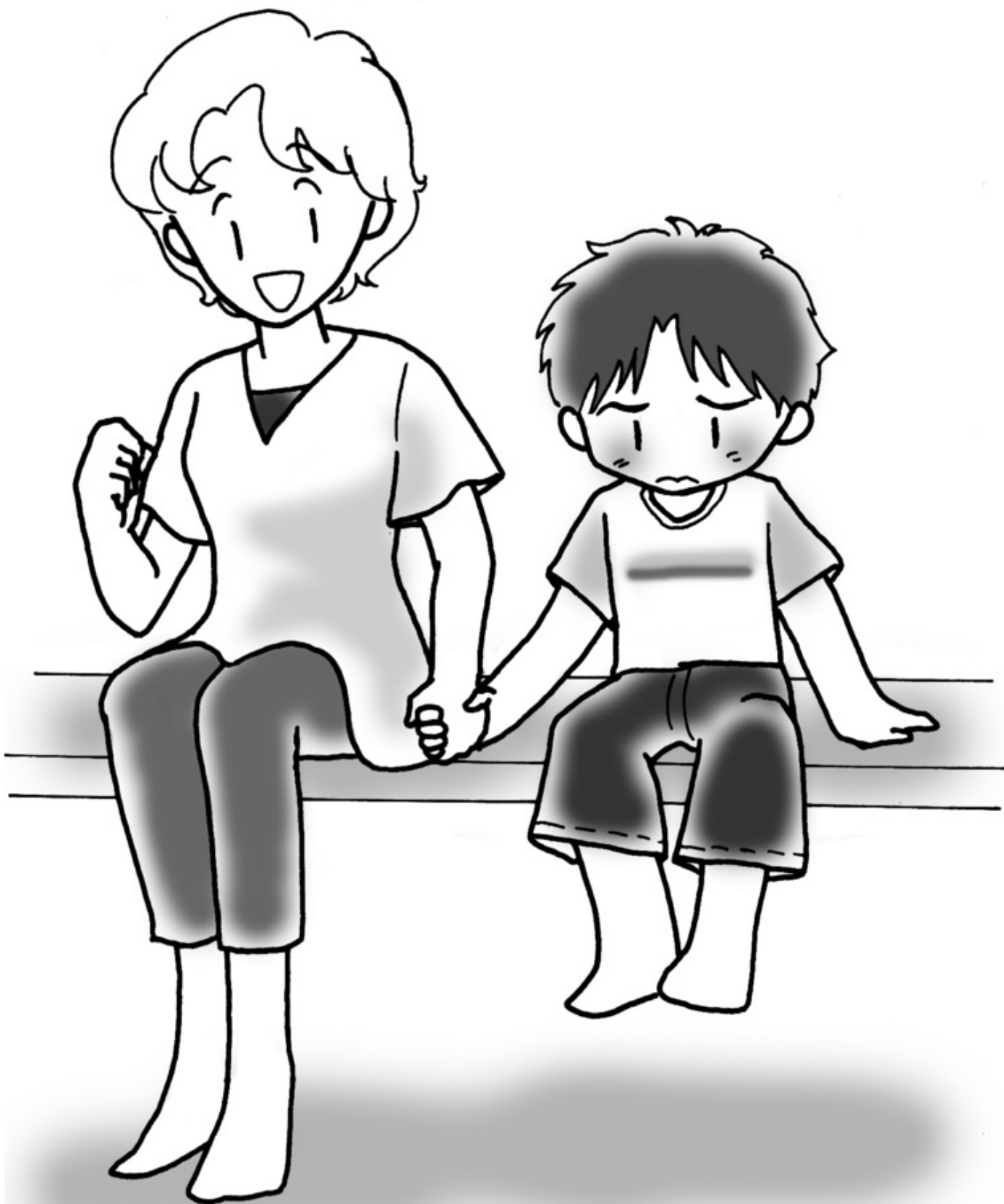
私　　：まさる、どうしたの？  
まさる：ねえ、手をつないでもいい？  
私　　：もちろんだよ。

手をつないだまま、そのまま一緒にいました。  
まさるの中に、何かがあるようです。

私　　：まさる、どうしたあ？  
まさる：ゆりさん、まさるのこと、嫌いになった？  
私　　：ん？嫌いになんか、なっていないよ。

私、まさるのこと大好きだよ。

まさる：本当に！？まさる、ゆりさん大好き。痛いことしてごめんね。





じーっと目を見ました。

ちゃんと伝わっていたようです。

私は、もう一度さっきの話をしました。

私　　：まさる、おにいちゃんになったなあ。  
　　さっき、めっちゃ痛かったもん。  
　　力が強くなったんだね。

まさる：・・・

私　　：まさるの大好きな人、誰なん？

まさる：お母さんと、お父さんと、めいちゃん（妹）と、みいちゃん（好きな子）を、お友達とかみんな好き。

私　　：そっかあ、まさるは、好きな人がいっぱいいるんだね。

まさる：うん！！

私　　：もしさ、まさるの好きな人が、大きな荷物もって困っていたり、  
　　動けなくなっていたりしたら、まさるはどうする？

まさる：僕がもってあげるし、抱っこしてあげる。

私　　：まさるは、大きなものや重いものが持てるんだね。

まさる：うん！まさる、こーんなおっきなおもちゃも、自転車も持てるもん！

私　　：そっかあ。まさるは、力が大きく、強くなってきたんだね。  
　　私も、まさると一緒にいて、安心やし嬉しいな。

さっきまでバツが悪そうだった顔が、  
一気に晴れやかになりました。

その日。

お片づけはもちろん、  
大きなおもちゃ箱を僕が持つ！と  
運んでいる姿を目にしました。



③「いったい何の表現なんだ！？（5歳のともくん）」－①

---

「こんにちは、ともくん。はじめまして。ゆりさんです。」

子どもたちと遊んでいた時のことです。

5歳のともくんがやってきました。

ともくん・・・！？

声をかけても、反応がない。

顔を見ても、目もあわせない。

表情もなく、言葉もない。

ほかの子ども達と、少し違いを感じました。

恥ずかしいのかな？

私はそう感じ、勝手に判断していました。

しばらく様子を見ていましたが、誰が関わっても同じ状態でした。

ほかの子ども達がみんな一緒に遊ぶ中、

ともくんは、ずっと一人。

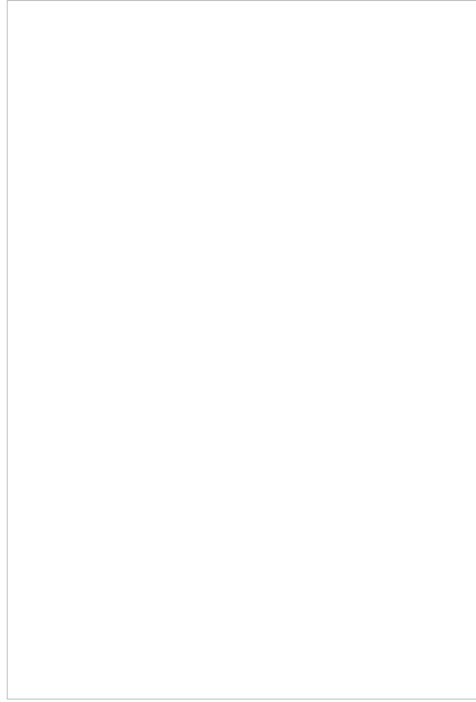
無表情のまま、ただ黙々と・・・

一人遊んでいる姿に、小さな不安を覚えました。

大丈夫かな・・・？

遠くから様子を見続けて1時間ほどたったとき、

ともくんが、急に立ち上がりました。



③「いったい何の表現なんだ！？（5歳のともくん）」ー②

---

カーテンの後ろにダッシュ！！





③「いったい何の表現なんだ！？（5歳のともくん）」－③

---

部屋にあった、大きな窓のカーテン。  
その後ろに、急に隠れ始めたのです。

そのカーテンの後ろに隠れては、  
急に飛び出してきた、一人で部屋をぐるんと走る。

私を含めた大人たちは、驚きました。

「ともくん、どうしたの？何しているの？何がはじまったの？」

ともくんは、無言のままです。  
そして、ただ同じことを繰り返す。

カーテンの裏に隠れる  
急に飛び出してくる  
部屋を1周ぐるんと走る  
また、カーテンの裏に隠れる？

なんなんだ！？

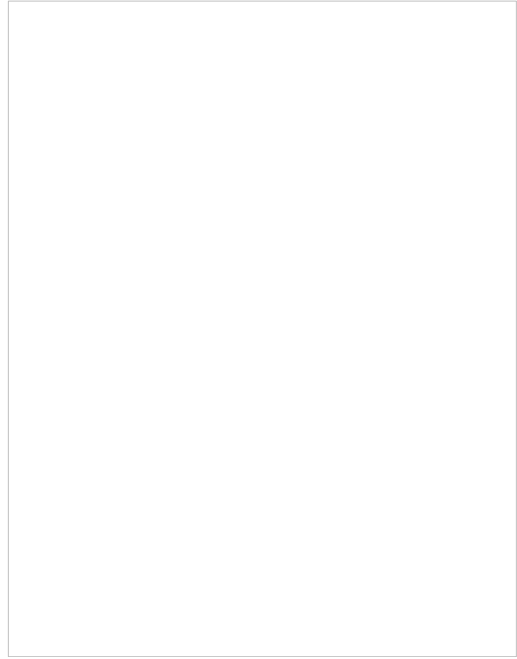
しばらくともくんを見ていた時、  
「はいつてみよう」  
私に出てきた思いつきです。

次の瞬間、  
走り回っているともくんを、  
さえぎるように飛び込んで。

私           ：つかまえた一



ぎゅっと抱きしめて、そのまま目を見て言いました。





言葉が出るわけでもなく  
ただ目だけが合いました  
まっすぐまっすぐなきれいな目でした。

そして手を離しました。

すると、ともくんは、カーテンの後ろに戻りました。

それからは、二人で繰り返しです。

私も、なんでやっているのか、わかりません。

でも、そのまま一緒にやり続けました。

私 : つっかまえたー

私 : つっかまえたー

何度も繰り返す、ともくんと私。

次の瞬間。



③「いったい何の表現なんだ！？（５歳のともくん）」－⑥

---

私　　：おいで！

思わず、手を広げて声をかけた私。

ともくん：きゃ—————！！

思いっきり飛び込んで抱きついてきました。

それまで、一切話さず、  
見向きもしなかったともくんが、  
自分で向きを変えて飛び込んできたんです。

初めて見た満面の笑み

初めて聴いたともくんの声。

笑い声と弾むような動きに、私をはじめ、みんなが驚きました。

腕の中に、ともくんを感じました。

温かくて力強い。

ぎゅーっと背中に感じる。

なぜか、私に、嬉しい、はずかしい、

色んな気持ちが湧き上がってきます。

思いっきり感じて、私は手を離しました。

そして、ともくんは・・・。

そう、またカーテンの裏です(笑)

その後は、カーテンから出てくるたびに、私に飛び込んできました。

お互いに思いっきり感じ、そして、また戻る。

しばらく続けました。

ともくんが、終わりだと感じるまでは、止めません。

③「いったい何の表現なんだ！？（5歳のともくん）」－⑦

---

「もういい、終わり」

それは、ともくんが知っていて決めることだからです。

何度も何度もやって、  
そのたびに抱きしめて、受け止め、感じあい。

10分もしないうちに終わりがやってきました。

走り終わったともくん、戻る場所が変わったのです。  
カーテンの後ろではなく、おもちゃのところへ走っていきました。

そして、おもちゃを持ったともくんは、  
ほかの子どもたちの中に入って、遊び始めました。

何事もなかったかのように・・・。

自分のペースで、自分の外側とつながっていく。  
その尊さに、心から感じた瞬間でいた。

そして、振り返って気が付きました。

私が無表情だと感じたことも、  
何も言わなかったことも、  
目を見ないことも、  
走っていることも、  
一人でやっていることもすべて、  
ともくんの表情そのものだったんだ。

1つ1つの表現は、何を表現しているのか、伝えているのか。

しっかり見ることの大切さ、表現の尊さを、  
私に教えてくれたともくんでした。



### 【3】おわりに①

---

子どもだから、できない。

子どもだから、わからない。

子どもだから、未熟だ。

そんなことは一切ないです。

子ども達は「できる！」と、自分を信じているし、  
そう生きています。

だから、大人が邪魔をしない限りは、  
必ず「できる」んですね。

子ども達の中には、  
持って生まれてきたたくさんの力があります。

それを、自分のペースで、自分なりの経験で、  
ゆっくりじっくり芽吹かせていると、  
子ども達を見ていると、実感します。

この子は何も言わないから  
この子は言葉が遅いから  
この子は落ち着かないから

そんなこと、ないので。

子ども達は、みんな自分にぴったりのペースで、  
ちゃんと自分を育てているのです。

大人にはジレンマがあるかもしれません。

でも、1つ1つの「行為・表現」に、発達のプロセスがあります。

1つ1つのあらゆる表現に、  
子ども達の「伝えたいこと」が

いっぱいいっぱい詰まっています。

### 【3】おわりに一②

---

だからこそ・・・

「あなたは、何を伝えているの？」

そんなことを、聴きたくて仕方がないのです。  
本当に伝えたいことが、聴けたときの喜びは、  
言葉では言いあらわせない幸せです。

持って生まれた大事な命。  
自分が選んできた、自分という個性。

自分が自分でよかった！幸せ！

そう感じながら子ども達が大きくなれること、  
どんな表現も尊重し、大事にされること。

そして、子ども達を通じて、  
自分もそうなんだ・・・と大人が思い出せることを願っています。

わたしにも、あなたにも、必ずあるから・・・。



## 【4】 作者紹介

---

★著者：木村祐理（きむらゆり）

2003年にカウンセラー・コーチとして独立後、行政、企業、教育機関などでの研修や授業、個人コーチング等で全国を駆け巡る。オルタナティブスクールの立ち上げ運営にかかわった後、コーチングを教育システムとして導入するべく本腰をいれる。現在は、二人の子供（オルタナティブスクールに通いつつ、ホームスクーリング）の子育てを楽しみつつ活動している。コーチングを行う傍ら、プログラムの開発、コーチングトレーニング、オランダの教育現場視察ツアーの企画、勉強会などを企画、実施。「あらゆる命を尊重しあい、それぞれの役割が感謝のもとに生かし生かされる社会」を目指して活動をしている。

→オフィシャルサイト <http://bec-coltd.xsrv.jp/yuri-kimura/>

★イラストレーター：香西啓子（こうざいけいこ）

『できない』から『できる！』へ『可能性を啓く』が私のミッション。

九州の長崎生まれ長崎育ち。デザイナー専門学校を卒業後、東京で10年間漫画家を目指すも挫折。ディズニーストアの初代キャストとして採用され、後に本部の商品部制作としてポップデザインを一手にまかされる。その後、印刷会社でDTPデザイナーとして従事。結婚後、コーチングと出会い、コーチングのセンスを活かしながらイラストを描くことでお客様の可能性を啓くお手伝いをしながら現在に至る。最近は身体に興味を持ち、いろんなことにチャレンジしている。

イラストレーター、漫画家、販促物デザイナー、美構造®開脚システムインストラクター、パステル和(NAGOMI)アートインストラクター、フラダンサー&インストラクター、コーチ

《イラスト・漫画》マンガ『育てない子育て～ほんまかいなコーチング～』

患者さんに選ばれる歯科医院『心をつなぐコミュニケーション』

バンクビジネス『4ステップで実践！預かり資産コンサルティング入門』

バンクビジネス『後輩育成のためのコミュニケーション』マンガ連載。

→オフィシャルサイト <http://www.ha-pi.net/illust.html>

子どもたちが魅せる 奇跡だらけの世界

<http://p.booklog.jp/book/120401>

著者 : purelilyy

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/purelilyy/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/120401>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト